



Iwate Association for UNICEF

2019年2月
【発行】
岩手県ユニセフ協会
(旧 日本ユニセフ協会岩手県支部)

〒020-0690
岩手県滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2F
TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
e-mail : sn.iunicef_iwate@todock.jp
ホームページ http://www.unicef-iwate.jp/

すべての子どもに5歳の誕生日を

～ユニセフ募金にご協力を～

街に中・高校生の声ひびき!!

盛岡市内ユニセフ募金活動

岩手県ユニセフ協会は、今年で40回目の「2018ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン」に、12月2日・12日 盛岡市内、12月8日花巻市内、12月15日宮古市内で開催。盛岡・花巻・宮古13会場のキャンペーンには、18校の中学生・高校生と一般ボランティア290名(内:中学生・高校生251名)が参加しました。

この募金キャンペーンで寄せられたユニセフ募金額は**53万1,992円**でした。

ご協力いただきました企業・団体・個人のみなさま、ありがとうございました。



ユニセフ
「Every Child Alive」
キャンペーン
日本では推定2,769人の新たな命が誕生



© UNICEF/UN0188813/Njiokiktjien VII Photo
▲母親に抱えられる生後2週間のモンゴルの赤ちゃん。(2018年3月撮影)

元旦に誕生する命、世界で約39万5千人
2019年の元旦、世界では推定395,072人の赤ちゃんが誕生し、その4分の1は南アジアで生まれるだろうとユニセフ(国連児童基金)は本日発表しました。

[2019年1月1日 ニューヨーク発]



▲カワトク・アネックスカワトク・ホットライン着町・MOSSビル前の募金活動

参加校 18校

- 盛岡市立河南中学校 ●宮古市立西中学校
- 盛岡市立黒石野中学校 ●盛岡白百合学園高校
- 盛岡市立松園中学校 ●盛岡中央高校
- 花巻市立花巻中学校 ●県立盛岡農業高校
- 花巻市立南城中学校 ●県立盛岡第二高校
- 花巻市立湯本中学校 ●県立盛岡北高校
- 宮古市立第一中学校 ●県立不来方高校
- 宮古市立第二中学校 ●県立花巻北高校
- 宮古市立河南中学校 ●県立花北青雲高校

参加者の感想から

- 募金をする前にユニセフについてお話をきいて、とてもいい活動だなと思いました。今回の活動で誰かを助けることができるとてもうれしいです。これからもたくさんの人を助けられるように頑張ってください! 私募金を見つけたら絶対します! ありがとうございました。(黒石野中学生)
- 発展途上国などの恵まれない子ども達のためになる活動を行えたのでよかったです。発展途上国の興隆を支えるのは先進国の責務でもあると思うので、この機会をとてますばらしく感じた。今後もこのようなことがあったら積極的に活動したい。(盛岡中央高校生)
- この活動によって少しでも多くの子ども達が笑顔になっていければいいなと思いました。寒かったけど心あたたまらなりました。ありがとうございました。(盛岡北高校生)



▲最初に紙芝居でユニセフ活動を学びました

シリア北西部

「子どもたちの命を脅かす 紛争、極寒、そして洪水」



▲水浸しになった道を歩く子ども。(2018年11月撮影)

紛争の激化のために、ふるさとから逃れることを余儀なくされた多くの家族は、すでに過密な国内避難民キャンプに行くしかありません。12月26日にはAtmeh, Qah, Deir Ballut, Albab, Jisr Ashughurの地域を洪水が襲い、1万人近い子どもたちが影響を受けています。凍えるような厳しい冬の天候に晒される子どもたちは、命の危機にあります。

「シリア北西部の子どもたちは、最近の暴力の激化、冬の厳しい天候、そして安全な避難場所の欠如という3重の苦難を強いられています。ユニセフは、シリア北西部および全土で紛争をしているすべての当事者に対して、いかなるときも子どもたちを保護し、子どもたちと家族に彼らが必要とする人道支援を届けることの許可を求めます」とユニセフ中東・北アフリカ地域事務所代表ヘルト・カッペラエは述べました。

トラック13台分の支援物資を現地に

ユニセフは現地のパートナーと協力して、子どもたちと家族の増え続けるニーズに応える支援を続けています。ユニセフは、命を守る支援物資を載せたトラック13台をこの地域に向かわせました。トラックは、冬服、防水シート、暖房用の燃料、微量栄養素補給剤、高エネルギービスケット、経



▲レバノン国内シリア国境近くの難民キャンプで、冬服などの支援物資を受け取った子どもたち。

口補水塩(ORS)、そして仮設教室のためのテントを積んでいます。またユニセフのパートナーは、感染症の流行を防ぐための保健、栄養、衛生面の支援ニーズをモニターし続けています。

ロヒンギャ

長期化するロヒンギャ難民危機のいま

ミャンマーでの暴力激化から逃れるため、大量のロヒンギャの人々が難民となってバングラデシュに流入し始めてから、1年4カ月。難民の多くを受け入れているコックスバザールでは、過密するキャンプや仮設居住区での避難生活が続いています。バングラデシュ政府の努力や国際社会からの支援によって、様々な取り組みが行われているものの、劣悪な環境の中、長期化する避難生活や先の見えない不安は、70万人にのぼる子どもたちに深刻な影響を及ぼしています。



▲モンスーン期の雨で水が溢れる道に、裸足で立つ難民の男の子。(2018年7月撮影)

岩手県ユニセフ協会活動報告

出前講座 盛岡市上田小学校 2018年11月7日

2018年11月7日、盛岡市立上田小学校の5年生61名を対象にユニセフ出前講座が行われました。

「誰もが大切ないのち」、世界の子どもの状況とユニセフ支援活動の紹介、体験を通して理解を深めました。

岩手県ユニセフ協会から守谷祐志常務理事ほか3名のボランティアスタッフが参加しました。



○「世界の人たちや、ユニセフについて教えて下さりありがとうございました。初めて分かったことは、東日本大震災や戦争があったあとに食料や粉ミルクをユニセフから受けとっていたということです。また、きれいな水も飲むことができない人たちが6億6300万人もいるということにびっくりしました。世界には苦しい思いをしている人がたくさんいることを忘れずに、募金などのできることをしていきます。(5年 男子)

○今回、お話を聞いて世界の子ども達がこんなにひどい環境にいると分かりました。ユニセフはそんな子ども達に食べ物や水をきれいにする浄水剤、ワクチンをとどけるなど活動をしていてすごいと思いました。これから募金だけでなく生活の節約もしたいと思います。(5年 女子)

北上市立鬼柳小学校 ～総合的な学習に「ユニセフ」を学ぶ～



先日はお忙しい中、僕たちのインタビューに答えていただきありがとうございました。

ユニセフの歴史や活動のことなどたくさんのお話を聞き学びました。特に印象に残ったことは、他にはあまりない「子どもたちのために」にあるということです。子どもの権利条約をもとにユニセフは子どもたちが生き、すこやかに成長できるように皆さんの国と協力してすごいでしょと思います。

他にも学校でユニセフ募金しているのは、昔学校に給食の粉ミルクをくれたことへの感謝のしるしだったということがとてもおどろきました。そして今もその募金が続いているのがすごいでしょと思いました。教えていただいたことをいかして、みんながよく分かるような発表にしていきたいです。(6年 男子)

チャリティーバザー

岩手県ユニセフ協会花巻友の会 恒例のチャリティーバザー大にぎわい



岩手県ユニセフ協会花巻友の会(会長 林正文)は、11月1～2日、花巻市愛宕町妙圓寺チャリティーバザーを開催しました。

みんなで持ち寄った商品、農産物では米・大根など多彩な野菜とオリオンベーカーさんの協賛のパンなど盛りだくさん。当日は待ちわびた会員のみなさんと大にぎわいのチャリティーバザーでした。ユニセフ募金62,520円

ユニセフ写真展

長谷部誠大使の「ワクチンの旅」

2018年11月16日(金)～22日(木)
岩手教育会館 1F ふれあいギャラリーで開催。



ユニセフ支援グッズの展示をし、親子の見学者もありにぎやかでした。「ユニセフ支援は長いことやっているが、サッカーファンではないが素敵な長谷部さんの活動を新聞で見えて来ました。」「一人でも多くの子どもの命が助かるように応援していきたい。」など感想が寄せられました。

ユニセフ・キャラバン・キャンペーンが来県

「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」は、世界の子どもの現状やユニセフ(国連児童基金)の活動に関する知識・認識の普及・啓発を目的に1979年の『国際児童年』を記念してスタートしました。

今回で10回目となった岩手県訪問。知事や教育長を訪問しメッセージ交換をし、教育委員会指導主事の方々や学校の先生方の研修、学校での「ユニセフ教室」を開催しました。

岩手県ユニセフ協会から内澤祥子専務理事・藤原綾子事務局長が同席し、ユニセフ教室にはボランティアスタッフが参加しました。



▲19日 達増拓也知事とのメッセージ交換
日本ユニセフ協会遠藤剛事務局長

11月20日・ユニセフ教室



▲県立盛岡第四高等学校1・2年 547名

▲矢巾町立矢巾中学校1年 100名

○「両校とも生徒たちは、お話を熱心に聞いたり体験にも参加し、とてもいい学習だったと思いました。」

(ボランティアスタッフの感想から)

盛岡市ウォーキング協会 創立20周年式典・祝賀会



2018年12月16日、盛岡市ウォーキング協会創立20周年記念式典で渡辺涉之進会長「この10年でユニセフ・ラブウォークや御所湖一周ウォーク等共催の企画で参加者が広がっている」とあいさつされました。

東日本大震災復興支援

大槌の今・・・お話を聞く会

12月22日大槌町文化センター大槌おしゃっちで、大槌町越田征夫さんから大槌の今についてお話を聞きました。

大槌は、海と山に囲まれた歴史的には古く、盛岡藩に海産物を届け農民一揆、三閉伊一揆はあまりにも有名。法務局や営林署もあり昔は行政の中心地であった。

東日本大震災では、かろうじて助かったが、震災後の痛々しい遺体に手を合わせ、遺体を置く場所もないくらいだった。「バックを忘れた!」と家に戻った人が生死をわけた。

先日、花巻農業高校の生徒たちにも話したが、「北上川もあるのだから自分のことと考えてほしい」と。平野町長(当時総務部長)は役場の屋上の壁にしがみついて九死に一生を得た。

住民の声にこたえていくと言っている。1200人の多くの命が失われ、大切な家族や知人を亡くした苦しみをそれぞれが抱えている。何が正しいのか、何が間違っているのかわからない。淡々とお話する越田さんでしたが、涙ながらに聞かされた越田さんの明るさに救われる思いでした。(文責 藤原)



▲街並みも少しずつ整って(中央公民館にて)

大槌キッズコーラス♪あぐどまめコンサート ～世界のなかまがしあわせになりますように～

12月22日 14:00から大槌町文化センター大槌おしゃっち多目的ホールで10回目のコンサートが開催されました。メンバーは大槌学園2～7年23名、高校生4名と増え、このゆびとまれJr 12名のみなさんの感動のステージにおおきな声援を送りました。



いわて生協第24回福祉まつり



10月14日(日)いわて生協第24回福祉まつりが盛岡市大通歩行者天国開催され、チャリティーバザー、子どもたちのエッグポップづくりも大好評。ステージではユニセフ手洗い紙芝居・ユニセフクイズ、支援グッズ紹介をしました。



ワン・ワールドフェスタinいわて

2018年度テーマ 世界へトライ!



12月8日開催された国際交流イベント ワン・ワールド・フェスタに参加し、ユニセフ活動をPRしました。

第9回 ユニセフラブウォーク in いわて

お父さん・お母さん・お友だちと一緒にいい汗かいて健康づくり、
～世界の子どもたちのために歩きましょう！～



▲第8回ユニセフ・ラブウォーク

申し込み先 第9回ユニセフ・ラブウォークin いわて 実行委員会 岩手県ユニセフ協会
〒020-0690 滝沢市土沢220-3 いわて生協本部2階
TEL:019-687-4460 (月～金10時～16時) FAX:019-687-4491
E-mail:sn.iunicef_iwate@todock.jp

ユニセフ・ラブウォークの参加費の一部はユニセフの事業を支える大切な資金となります。思い思いのペースで歩いた汗がユニセフを通じて、発展途上国の子どもたちの健康に役立てられるユニセフ・ラブウォーク。参加費がユニセフ募金となるこの運動は1965年にイギリスで生まれ、日本では1983年に始まりました。

「第9回ユニセフ・ラブウォークinいわて」開催要領

2019年 **5月19日(日)** 小雨決行

会場 盛岡城跡公園広場 ※スタート・ゴール/5km・10km

受付 8:30～ **出発式** 9:15

スタート 10km…9:30 5km…9:30

参加定員 300名

参加費 大人……………**500円** ※共にユニセフ募金、保険の費用を含む。
子ども(18歳未満)…**200円**

申込締切 5月10日(月)

岩手県ウォーキング協会・盛岡市ウォーキング協会
岩手県ユニセフ協会共催

日本ユニセフ協会賛助会員として、 世界の子どもたちを応援してください。

○ 賛助会員ってなあに？



ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やさまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を入手し、さまざまなイベントにご参加ください。

○ 賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口 5,000円 <small>*1口以上、何口でもご協力いただけます</small>	入会月～1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口 2,000円	入会月～1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口 100,000円	入会月～1年間

※一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

※賛助会員は寄付控除の対象になります。

お願い 個人・法人を問わず、ユニセフロゴマークを使用したり表示する事、および(公財)日本ユニセフ協会賛助会員である事を営利目的のために表示する事はできません。

○ 賛助会費のお支払い方法

一般および学生賛助会員の会費は、金融機関(銀行、信用金庫等)またはゆうちょ銀行からの口座振替にてお支払いいただけます。お申込み時にご指定いただいた口座から、毎年入会月に会費を引き落としさせていただきます。

団体賛助会員の会費については、ご案内を別途お送りしております。ご希望の際は、お問合せください。

※皆様の個人情報は、公益財団法人日本ユニセフ協会が日本におけるユニセフ国内委員会として行う活動ーユニセフ(国際連合児童基金)本部との協力協定に基づき、世界の子どもたちの権利を守るために日本において行うユニセフの広報活動・募金活動ーの目的にのみ利用いたします。

○ 賛助会員の特典

賛助会員としてご登録いただけますと、会員証を発行し、機関誌「ユニセフ・ニュース」(年4回発行)をお届けします。ユニセフが世界で行っている支援活動の報告や、開発途上国の子どもたちの状況、国内イベントの情報など最新情報をご覧いただけます。ご希望の方には、ユニセフ・ニュース等でご紹介するユニセフの最新資料を1部まで無料でお送りしています。

賛助会員を希望される方は県ユニセフ協会まで。

ユニセフパネル展 入場無料



もったいないばあさんのワールドレポート展は地球で起きている問題と私たちの暮らしとのつながりを伝える展示会です。いま地球の上では、さまざまな問題が起きています。気候変動、森と生きものがきえる問題、食料と水の不足、戦争、難民、子どもたちが働かされている問題、貧困、格差などなぜこのような問題が起きているのでしょうか？そして、私たちとの暮らしとどのようにつながっているのでしょうか？もったいないばあさんといっしょに考えていきましょう。

花巻市 **3月20日(水)～3月23日(土)**
10:00～17:00 (最終日 15:00まで)
会場：花巻市 妙圓寺

盛岡市 **3月27日(水)～3月29日(金)**
10:00～17:00 (最終日 15:00まで)
会場：プラザおでつて 2Fギャラリー

ユニセフ募金につながる外国コイン・書き損じハガキ・古切手を会場で受付

あ・と・が・き

○大槌町の中心部御社地地区は、内陸部に住むものにとってあまり知られていないかもしれない。

1896年(明治29)の大津波の記念碑が御社地地区に建立されており、東日本大震災で流され奇跡的に発見されて御社地地区に再建されている。今の小学生は東日本大震災を知らない世代となっている。よりよい町づくりに子どもの意見が反映され、子どもにやさしい復興が進むことを願わずにはられない。

(事務局)